

映画 『チリの闘い』(ドキュメンタリー/監督・脚本Ⅱ)

# チリのあの偉大な実験を徹底的に観察

一九七〇年秋、チリ大統領選挙で、社会党と共産党を中心とした人民連合が推したサルバドル・アジェンデが勝利した。アジェンデ政権は社会主義を合法的にめざすと宣言して多くの企業を国有化し、労働者・人民の団結で闘いを進めた。しかし、社会主義の可能性を抹殺しようとする資本側の執拗なサボタージュとデモンストレーション、そしてアメリカ合衆国による露骨な干渉により、一九七三年九月十一日に軍事クーデタで人民連合政権は倒れた。アジェンデ大統領をはじめ数万人が虐殺された。三部構成のドキュメンタリー映画『チリの闘い』(監督・脚本Ⅱパトリシ

オ・グスマン、一九七五〜七八年、チリ・フランス・キューバ、二六三分)は、人民連合政府の下での階級闘争がどのようなものであったのかを記録したものである。映像はぶつ切りも多く、ナレーションで多くの情報を補っている。それでもすくえられた記録になっているのは、時代の証言者になろうとしてカメラを反革命勢力の中でも廻し、資本主義をのりこえようとしたアジェンデの実験を徹底的に観察したからではないか。どのようなことが映像として記録されたのか、簡単に見えておこう。

第一部「ブルジョワジーの反乱」(一九七五年、九六分)は、一九七三年三月の国会議員選挙直前の街頭インタビューからはじまる。支持率が拮抗しているのがわかる。与党の人民連合は三六%から四三%まで支持を伸ばすが過半数をとれない。右派の国民党と中道のキリスト教民主党は政権に敵対し、国会の権限を使って閣僚を次々と罷免し、アジェンデの立法をことごとく否決する。さらに労働者を分断させるため、輸送業者や小売業者、そして鉱山労働者の一部をも取り込み、反革命の大衆行動につけて出る。カトリック大学生はその先頭に立っている。そして六月十九日、軍部によるクーデタ未遂事件がおこる。

第二部「クーデター」(一九七六年、八八分)は、アジェンデの必死の努力が記録されている。トラック業者たちの「創造」が必要となるが、流通過程も必要に応じて「創造」する。各工場間の生産調整をする組織を立ちあげる。トラック業者のサボタージュに対抗して車を集めて配送する組織を「創造」する。小売業者のサボタージュには、新しい配給組織を「創造」する。そのシステムがチリ社会で支配的になる前にクーデタが起きてしまったのだが、これまで出版されたチリ人民連合に関する書物からは第三部で記録されたことはほとんど知られていない。何を「創造」したのか、といっているのかもしれない。たとえば資本側が工場はこんなにも遅れたのだらうか、と。井野茂雄

第三部「民衆の力」(一九七八年、七九分)は、第一部と第二部の時期に「民衆」は、どう闘ったのか、を記録している。何を「創造」したのか、といっているのかもしれない。たとえば資本側が工場はこんなにも遅れたのだらうか、と。井野茂雄

第三部「民衆の力」(一九七八年、七九分)は、第一部と第二部の時期に「民衆」は、どう闘ったのか、を記録している。何を「創造」したのか、といっているのかもしれない。たとえば資本側が工場はこんなにも遅れたのだらうか、と。井野茂雄

第三部「民衆の力」(一九七八年、七九分)は、第一部と第二部の時期に「民衆」は、どう闘ったのか、を記録している。何を「創造」したのか、といっているのかもしれない。たとえば資本側が工場はこんなにも遅れたのだらうか、と。井野茂雄

第三部「民衆の力」(一九七八年、七九分)は、第一部と第二部の時期に「民衆」は、どう闘ったのか、を記録している。何を「創造」したのか、といっているのかもしれない。たとえば資本側が工場はこんなにも遅れたのだらうか、と。井野茂雄



映画『チリの闘い』より